

令和5年度宮崎県農政水産部試験研究評価検討委員会（農産委員会）議事概要

宮崎県では、本県農畜水産業の更なる振興のため「宮崎県農畜水産業試験研究推進構想」に基づき「高度な革新的技術で、生産現場の期待に応える」研究開発等に取り組んでいます。

宮崎県農政水産部試験研究評価検討委員会では、本県農水産業の持続的な発展に貢献できる高度な技術開発を効率的に行うため、各試験場の研究計画及び研究成果等について、有識者等による多角的かつ客観的な評価や意見をいただくことを目的として毎年開催しています。

令和5年10月26日に開催した宮崎県農政水産部試験研究評価検討委員会の議事概要については、以下のとおりです。

1 委員（農産委員会：対象とする分野は、総合農業試験場の試験研究）

宮崎県経済農業協同組合連合会園芸部	部長	おしかわかずのり 押川和範
みやざき農業委員会女性ネットワーク	副会長	さとすみこ 佐藤純子
宮崎大学農学部	教授	たけしたみのる 竹下 稔
宮崎県青果市場連合会	事務局	たにぐちまさる 谷口 優
宮崎県農業経営指導士会	会長	たむらみちやす 田村通康
九州沖縄農業研究センター暖地畑作物野菜研究領域長		ながたけんじ 長田健二
株式会社ジェイエフーズみやざき	代表取締役専務	みつひらけんいち 満平 健一

欠席委員

生活協同組合コープみやざき	会長	よしもとみち 吉元 美智
---------------	----	-----------------

2 議題

- (1) 試験研究継続課題の取組状況報告
- (2) 試験研究終了課題の研究成果の評価・検討
- (3) 試験研究候補課題の評価・検討

3 議事概要

(1) 試験研究継続課題の取組状況報告

「みやざきトロピカルフルーツの経営安定に向けた優良系統の供給システムの開発」

□ 満平委員

簡易挿し木苗の発根促進剤は何が使われているか。

■ 生物工学部 杉村部長

こちらの研究は、光独立栄養培養といって、発根促進剤を使わない技術となる。これを応用してライチで使えないかという研究である。

発根率が低いこともあり、インドール酢酸を組み合わせたが、発根には至らなかった。

□ 長田委員長

まずは挿し木の手法の開発に注力、その後に挿し木苗の育成方法を検討という理解でよいか。

■ 生物工学部 杉村部長

発根個体が少なく、挿し木苗の育成方法を検討するに至らなかった。微生物資材を含め、まずは発根個体を得る手法を開発したい。

- 竹下委員
海外の産地でも同じような手法が行われているか。
- 生物工学部 杉村部長
海外では事例がなく、国内の日本製紙グループが光独立栄養培養という技術のライセンスを持っている。これを参考に、微生物が二酸化炭素を出すということを活用できるのではと考えたが、ライチに関してはなかなか発根個体が得られていない。
- 竹下委員
海外というより、独自の技術か。
- 生物工学部 杉村部長
国内企業の技術
- 竹下委員
技術開発にどれくらいの期間がかかるのか。
- 生物工学部 杉村部長
数年はかかる。

「宮崎の未来を拓く緑ピーマンF 1 品種の育成」

「次世代型ピーマン農業経営のための緑ピーマン・台木品種の育成」

「生産性向上に向けたピーマンハイワイヤー栽培技術の確立」

- 田村委員
ピーマンを作っている。ピーマン関連として、3課題あるが、「生産性向上に向けたピーマンハイワイヤー栽培技術の確立」はパプリカやカラーピーマンも含むのか。
- 野菜部 黒木部長
経済連ハウスにみられるような高軒高でハイワイヤーができないか、カラーピーマンも適応性はみているが、緑ピーマンが主である。
- 生物工学部 杉村部長
カラーピーマンの育成は「宮崎の未来を拓く緑ピーマンF 1 品種の育成」で取り組んでいる。台木の新品種を作っていきたい。
- 田村委員
自分で苗を作っている知人から、キュウリから伝染するアブラムシ媒介のウイルス病が発生していると聞いている。ウイルス抵抗性の品種についても研究していただきたい。

(2) 試験研究終了課題の研究成果の評価・検討

「県産農産物のブランド力向上に資する品質保持技術の確立」

- 竹下委員
かんしょの輸送でカビがでてしまうというのは、軟腐病等の病害のコンタミを想定しているのか。また、輸出は包装技術でどれだけ対応できるのか。
- 生産流通部 日野部長
軟腐病のカビは、接種試験を検討中。
包装資材によって、二酸化炭素・酸素の通気性の善し悪しがあり、今年度についても、新たな資材を試験中。船便での輸送中の品質低下対策として、研究中である。
- 長田委員長
試験区の処理の内容を教えて欲しい。
- 生産流通部 日野部長
日持ち試験区は1が固い、2がやや固い、3が慣行、4が慣行以降の順となる。

□ 長田委員長

流通問題に対して、販売日数を広げようということであるが、何日程伸びるのか。

■ 生産流通部 日野部長

何日程度というのはわからないが、これまで以上にトラック輸送が遅れることから、様々な鮮度保持剤を検討している。

「次世代ピーマン病害抵抗性品種の育成」

□ 田村委員

黒枯病の発生は、環境の影響を受ける。最近では、できるだけ農薬を使わないということが重要なので、あきらめずに抵抗性品種の育成を進めていただきたい。

■ 生物工学部 杉村部長

黒枯病に関しては、重要な病害と認識。継続課題（今年度課題）「次世代型ピーマン農業経営のための緑ピーマン・台木品種の育成」において、引き続き取り組む。

□ 長田委員長

昨年度までは、系統が得られなかったというところで、遺伝資源的に、評価法を改善してよくなったか。

■ 生物工学部 杉村部長

文献を参考に評価法を改善したが、目的とする系統は得られなかった。今後はジーンバンクで入手した遺伝資源を用いて、探索していきたい。

「温暖化に適応した有望高温性カンキツの低コスト栽培技術開発と新たなカンキツ品目探索」

□ 田村委員

「かんきつ中間母本農6号」は手もぎ収穫が可能とあるが、どのような特徴か。

■ 亜熱帯作物支場 山口支場長

果物のへたに離層が形成されることで、手もぎ収穫が容易である。また、へたが残らないので有用な品種である。

□ 竹下委員

CTV（カンキツトリステザウイルス）の関係でお世話になっている。新しい病害にも、検定等検討をお願いしたい。

■ 亜熱帯作物支場 山口支場長

かんきつ類は品種によってウイルスに弱い、強いがある。引き続き対策をする。現場と連携して、症状を確認しながら進めていく。

「食用カンショの省力化栽培技術の確立」

□ 田村委員

評価がBというのは、普及に至らなかったということであるが、早期水稲の後にカンショは作れないか。土地改良をしているが、何をやるのかということなので、普及センターに聞いたところ、わからないということだった。

例えば今回の試験から、カンショはどの程度まで晩植可能か（「べにはるか」は120日で収穫可能という農研機構の情報もある。）。

■ 畑作園芸支場 八代支場長

晩植栽培の試験は、梅雨時期を外して試験しているが7月29日植えでは難しい。串間市の現地でも実施したが、基腐病の影響や防除の遅れもあり、低収量となった。普及センターにも情報提供しているが、個別にも情報提供していきたい。

「世界に輝く！みやざき茶の高付加価値生産技術の構築」

佐藤委員

GABA茶に関心がある。GABA茶は新しい種類の茶なのか。

茶業支場 川越科長

ギャバロン茶として、20、30年前には開発されていたが、当初は漬物臭がして受け入れられなかった。今回のGABA茶はこの臭い軽減し、飲みやすくした。今後は西臼杵を中心に普及を進める。

佐藤委員

飲みやすいお茶というと、取り組んでみたい。ドラム式萎凋機の購入も必要となるが、がんばりたい。

竹下委員

新たな志向の茶として期待している。若者はSNSを活用して広められると思う。販売戦略も含め、進めて欲しい。

茶業支場 川越科長

大学の方でも試飲などさせていただきたい。

「宮崎県の気象条件を活かしたアボカド導入のための技術開発」

長田委員長

外国産が9割以上という中、リードという品種は外国産と比べて品質はどうなのか。

亜熱帯作物支場 山口支場長

着果期間を長くすることで油分を多くすることが特徴。外国産とも競合せずに選ばれるのではと考えているので、更に頑張っていきたい。

佐藤委員

新規就農の方には導入は難しいか。

亜熱帯作物支場 山口支場長

現段階では難しい。木によって収量のばらつきが大きい。また、苗木の品質の影響も大きい。安定した台木を作る技術開発を行えたら解決できるか可能性もあることから、取り組んでいるところ。

(3) 試験研究候補課題の評価・検討

「地域の水田農業を支える稲作技術の開発」

田村委員

「ひなたみのり」は、今年から現地普及されおり、自分も今年作った。9月の台風で倒伏したが、病気には強く、無防除でもいもち病にならなかった。一方で、倒伏や穂発芽が懸念される。施肥設計も含め、御指導いただきたい。更に、粒が大きいので、もみすりしやすく、自分の栽培する水田の平均収量が470kg程度の中で、収量は500kgを超えた。

今後は、地球温暖化を逆手にとった2回刈り体系ができないか検討いただきたい。

作物部 荒砂部長

「ひなたみのり」は基本的には倒伏に強いが、台風では折れるように倒伏することを今年確認している。また、紋枯病による倒伏も場内で確認していることから、紋枯病の防除は必要である。今後は施肥設計等含め情報を提供していきたい。

また、2回刈りは本庁に確認したところ、飼料用米としての出荷分は補助対象とならないとのことであった。加工用米や米粉用も、現状では、2回刈りは現実的ではないとのことから、今後の動向を見ながら必要に応じて対応したい。

□ 田村委員

2回刈りについても、県としても推進するよう仕向けていただきたい。
また、中干し延長は、溝切りを必要とするのか。

■ 作物部 荒砂部長

1週間に加え1週間程度延長するという技術であるが、溝切りやどの程度までするかまでは示されていないところ。

田によって水はけの善し悪しがあるので、干しすぎによる収量低下も考えられるので、条件を整理して情報提供したい。

「ピーマン養液栽培における省力化技術の開発」

□ 押川委員

寒い時期に収穫物はでないのか。
養液栽培、資材高騰があるなかで、導入できるのか。
養液栽培を確立して、今後も進めていくのか。

■ 野菜部 黒木部長

栽培者が減ってきている中、習熟度に関わらず平均反収+ α となる技術が必要。現行の土耕栽培では高い習熟度が必要で、雇用しにくい側面があるが、養液栽培であれば、そこを解決できる。

また、今回新規課題の中で取り組む垣根仕立ては、高知県で実践されている。これまでのハイワイヤー栽培は、収量は上がるが、台車による上から下までの収穫が必要となるなど労力がかかるため、それらを解決できる垣根仕立てを検討することとしている。

養液栽培はいつでも定植できることから、冬場の日射量を活用し、一番暑い時期、寒い時期を避けて定植できればと考えている。

更に同課題では、収穫ロボットの活用に合わせて仕立ての検討や循環式養液栽培も検討することとしている。

□ 押川委員

栽培する環境という部分を考えていただきたい。普及を想定して研究内容の検討が必要。養液、土耕、それぞれで使える技術の検討をお願いします。

■ 野菜部 黒木部長

土耕でも使える技術を検討していきたい。

□ 田村委員

整枝はどうするか、垣根仕立ては技術が必要。どんな整枝方法だったら良いのかを検討していただきたい。

化石燃料をどのように減らすかは重要。重油に比べて木質ペレットの方が割高だが、個人的には今年も使いたい。

■ 野菜部 黒木部長

生産原価をいかに減らしていくかが重要。そこはぶれないように栽培試験に取り組みたい。

「果菜類の宮崎県オリジナル新品種育成」

□ 押川委員

新規課題のイチゴとニガウリの内容は、生産者に話しても問題ないか。

■ 野菜部 黒木部長

生産者にお話いただいてもかまわない。知っていただけるとありがたい。

□ 押川委員

期待している。

「宮崎特産ヒュウガナツ・キンカンの省力安定生産技術開発」

□ 押川委員

キンカン夢丸は引き続き研究しているが、県として今後、夢丸を進めるのか。

■ 亜熱帯作物支場 山口支場長

推進方針は夢丸プロジェクトの中で整理したところ。産地化を目指すJAと、作りたい生産者へ進める方向で進め、儲かる技術を普及していく。

そのために試験研究の立場としては、引き続き試験研究を進める。